

持続可能な社会づくりの人材養成塾

# あいち 環境塾

令和  
2  
年度

AICHI  
ENVIRONMENT  
JOB SCHOOL

環境に興味のある人たちが学びながら意見を交わす「交流の場」として、  
平成20年度から愛知県と(公財)名古屋産業科学研究所が共同で開講している塾です。

環境と愛知の未来を共に考える

豪華講師陣と直接ディスカッションができます！



## 開講の趣旨



愛知県知事  
大村 秀章

経済活動や日常生活による環境への負荷の増大や天然資源の枯渇などが懸念される今日、社会全体の仕組みを見直し、持続可能な社会を形成していくことが私たちの重要な課題となっています。

私たちの求める持続可能な社会は、環境と産業と暮らしが調和するとともに、快適かつ安心であり続けることのできる社会であり、そのためには、地域の住民や企業、行政などが協働して社会の仕組みを創り変えていくことが求められます。

本県は、モノづくりの地域として様々な産業技術の集積が存在すると同時に、我が国有数の農業県であり、さらには豊かな海や森林が広がるなど、多種多様な資源を持つ地域です。持続可能な社会づくりは、これらの“資源”を大いに活用して進めていくことが必要ですが、そのためには、“ビジョン”と“こころざし”を持つ人材を育成することが何よりも大切です。

こうした考えのもと、本県では、企業や大学、行政などといった様々な分野において、環境を基調とした地域づくりのリーダーの育成を目指して「あいち環境塾」を開講しております。

この「あいち環境塾」では、講師陣に環境分野で活躍する研究者、指導者を迎えています。そして、講義に加え、講師も加わった討論や合宿などを通して、互いに切磋琢磨し、目標を共有する仲間づくりができるようなクリエイティブな場とすることを目指しています。

本県で、環境、産業、暮らしにおける持続可能性が高まり、さらにより良い地域へと生まれ変わっていくために、そして我が国全体を持続可能な社会としていくために、「あいち環境塾」への皆様のご参加をお待ちします。

令和2年3月

## あいち環境塾の特色

### 1 「環境」を多角的に学び、「統合」をめざす「塾」

企業の取組であっても、行政の取組であっても、環境のプロジェクトを実現し成功させていくためには、地球環境や社会全体に与える影響を考えることが必要です。環境に一人勝ちはありません。良いプロジェクトを企画するためには、企画者自身が環境について様々な視点から多角的に学び、それらを統合して、利害関係者に働きかける、大きな発想が求められます。「あいち環境塾」は、このような「統合」をしていただけるような場を目指しています。

### 2 こころざしを持った人材が集う「塾」

「あいち環境塾」は、企業や大学、行政などで「環境」の実務や研究に携わり、持続可能な社会づくりの“こころざし”を持つ方々が集い、自らが積極的に学び、意見を交わすことを通じて、互いの視野を拡げ、分野を越えた協働の可能性を発見する、交流の場となることを目指しています。

### 3 各分野の第一人者と対話できる「塾」

「あいち環境塾」の講師陣には、エネルギー、環境技術、資源循環、環境ビジネスなど、関連分野における我が国を代表する第一人者を招聘します。参加者は、講義を受けるだけでなく、丸一日、講師と時間を共にして意見を交わし、理解を深めることができます。

### 4 ビジネスモデルや政策の提言に向けたチーム活動

塾期間中を通して、チームで「20年後の未来社会へ向けての環境に関する政策やビジネスモデル」づくりに取り組んでいただきます。最終日には「1泊2日の合宿」で、チームごとに政策やビジネスモデルに関する研究成果を愛知県に発表していただきます。塾生の相談役として、大学の研究者を中心とした「チューター」が毎回出席し、塾生の皆様をサポートします。

### 5 修了の成果

卒塾生は、塾で学んだ環境に関する知識を生かし、職場改善や地域での環境活動に取り組んでいます。また、塾生同士、チューター、卒塾生、講師とのネットワークが築かれるのも「塾」の目的であり、そのネットワークが卒塾後の活動に生かされています。卒塾生や地域社会を創る人たちの活動の場として、卒塾生等が中心となりNPO法人AKJ環境総合研究所を設立し、平成26年度から活動しています。



## あいち環境塾のメンバー

### 塾長



愛知県副知事  
**青山 桂子**

### 顧問



愛知工業大学  
工学部  
教授  
(公財)名古屋産業科学研究所  
理事・副所長・研究部長  
**鈴置 保雄**

### プログラム・コーディネーター



トヨタ自動車(株)  
国内業務部主査  
**近藤 元博**

### プログラム・マネージャー



名古屋大学  
大学院工学研究科  
准教授  
**小林 敬幸**

### 主な講師陣



東洋大学  
情報連携学部  
情報連携学科  
教授  
**後藤 尚弘氏**



東京工業大学  
特命教授・名誉教授  
科学技術創成研究院  
先進エネルギー  
国際研究センター長  
**柏木 孝夫氏**



東京大学  
大学院工学系研究科  
教授  
**沖 大幹氏**

### 資源循環と社会

資源循環は大きく変わりつつあります。これまではリサイクルを基盤とした「廃棄物処理」の話でしたが、環境省が提唱している地域循環共生圏が示すような「地域づくり」の話になってきました。そこには、ライフサイクル思考による資源管理、様々なステークホルダー間のコミュニケーション、災害廃棄物等の諸問題が含まれます。ICTの導入も進められています。資源循環の最新の話と今後について皆さんと考えたいと思います。

### 日本のエネルギー戦略と今後

パリ協定を受け、我が国や米国の関連政策の最新状況を述べる。加えて、再生可能エネルギーに対する光と影、脱炭素型エネルギーシステムの実現に向けた動き、化石燃料の高度利用に対する最新の政策動向等について解説する。電力・ガス小売りの全面自由化に代表されるようなエネルギーシステム改革は、産業界の競争力強化に繋がるだろう。21世紀の我が国の成長エンジンは、脱炭素エコノミーをい早く実現することにある。実現方策をともに考えたい。

### 水と気候変動

なぜ水資源は足りなくなるのか、仮想水貿易とは、水へのアクセスに関する国際合意はなぜ達成されたのか、気候変動で水需給や水災害はどう変化しどのように対応すればよいのか、持続可能な開発に関する2030アジェンダに掲げられた持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けてなぜどのように取り組みればよいのか、などに関し、基礎から先端的な研究成果までを紹介する。



東京大学  
未来ビジョン研究センター  
教授  
**高村 ゆかり氏**



神戸大学  
大学院科学技術  
イノベーション研究科  
教授  
**尾崎 弘之氏**



東京都市大学  
特別教授  
**涌井 史郎氏  
(雅之)**

### 国際的な環境問題にどう対処するか

地球温暖化をはじめとする国際的な環境問題の解決を目指して、国際社会は、様々な努力を積み重ねています。国際条約が締結され、国際的な環境問題の解決に協力するための枠組みが生まれ、各国の環境法や環境政策に少なからぬ影響を与えています。国際社会がこうした国際的な環境問題にいかに対処してきたか、どうしたらより効果的に対処できるか、日本の環境法や環境政策にどのような影響を与えているかを皆さんとともに考えます。

### 環境分野でオープンイノベーションを目指す

環境省の調査によると、国内環境産業の市場規模は、105.4兆円を上り、278万人もの雇用を生んでいます(いずれも2017年)。特筆されるのは、「地球温暖化対策」関連の市場は2000年以降、年率13.8%もの急成長を継続していることです。環境ビジネスは日本の成長戦略において重要な分野であることが分かります。グローバル市場においても、環境・エネルギーはITやバイオと並ぶポテンシャルがあります。環境分野に限らず新規事業を作るには、イノベーションの仕組みを知る必要があります。講義において新しいアイデアを事業化する方法を学んでください。

### 人類は生態系サービスに支えられている

COP6で目標された「2010年目標」が、その後の地球規模での調査「生態系ミレニアム評価」では「生物多様性は引き続き減少している」という結果となった。そうした背景の中で2010年10月に愛知・名古屋でCOP10が開催された。数多い開業成果の中でも、2050年までの長期目標「自然と共生する世界」の共有とその実現を期すため、第65回国連総会の議決を経て2020年までの短期目標「国連生物多様性の10年」が肝となる。その目標達成の為、国内のあらゆるセクターの参画と連携によって「日本委員会(UNDB-J)」が設立された。10年の長きに亘りUNDB-J委員長代理を務めた立場から、その経過と成果、残された将来課題等について話題を提供する。



京都大学  
大学院農学研究科  
教授  
**栗山 浩一氏**



中部大学  
特任教授  
**武田 邦彦氏**



中日新聞社  
論説委員  
**飯尾 歩氏**

### 自然の恵みはタダなのか?

きれいな空気、水、美しい景観など、私たちは自然から様々な利益を得ています。しかし、自然の恵みの大半は価格が存在しないため、守っても利益が得られません。自然を守るには、自然の恵みがタダではないことを示すことが重要です。そこで、自然の恵みの価値を金銭単位で評価する手法として仮想評価法(CVM)が注目されています。自然の価値を評価する方法を紹介するとともに、自然の価値と保全のあり方について考えます。

### 環境活動は日本社会に何をもたらしたか

1990年のバブルの崩壊とともに日本社会は大量生産から環境重視へと向かった。それから30年。環境活動は日本社会に何をもたらしたのだろうか? そのプラス面、マイナス面を整理するとともに、「議論をしない日本社会」が何をもたらすのか、子孫にどのような影響を与えるのかについてのまとめを行った。

### 環境ってなんだろう?—メディアから

生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)が名古屋で開催されてから、今年で10年。最大の成果と言われた名古屋議定書は、単なる自然保護ではなく、遺伝資源、すなわち、生き物の命の恵みを、私たち人間が、公平に、未永く享受するためのルールです。人間の持続可能性を保つ知恵。そこには、日常の暮らしの知恵も含まれます。今、SDGsがブームです。先日、食品の量り売り奨励する地方のスーパーを取材して感じたことですが、国連が言うからやるのではなく、豊かな暮らしを後世に伝えるためのささやかな暮らしの知恵も、SDGsになるのだと。考えてみませんか。持続可能性って何だろう?

## チューター陣

「あいち環境塾」では、塾生の皆さんの相談役として、若手研究者の先生方を中心に「チューター」を依頼しています。チューターは、すべての講座に出席して、塾生をサポートします。

## リーダー

**藤井 芳一** 人間環境大学人間環境学部環境科学科学科長  
環境教育センター長 准教授

## サブリーダー

**薄井 智貴** 人間環境大学人間環境学部環境科学科 教授

## サブリーダー

**奥岡桂次郎** 岐阜大学 Coデザイン研究センター 准教授

**今中 政輝** 名古屋大学未来材料・システム研究所 特任助教

**入澤 寿平** 名古屋大学大学院工学研究科 助教

**小谷 博光** 人間環境大学人間環境学部環境科学科 助教

**神本 祐樹** 名古屋大学 未来社会創造機構  
マテリアルイノベーション研究所 准教授

**窪田 光宏** 名古屋大学大学院工学研究科 助教

**志水 剛** 特定非営利活動法人AKJ環境総合研究所  
(あいち環境塾 第10期生)

**杉山 範子** 名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授

**鈴木 英司** 愛知海運(株) 事業戦略室 課長  
(あいち環境塾 第11期生)

**谷川 彩月** 東京大学大学院 新領域創成科学研究科  
社会文化環境学専攻 PD特別研究員

**東海林孝幸** 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 講師

**西田 美紀** 人間環境大学人間環境学部環境科学科 講師

**羽田 裕** 愛知工業大学経営学部経営学科 准教授

**町田 洋** 名古屋大学大学院工学研究科 助教

**山根 卓二** 人間環境大学人間環境学部環境科学科 教授

※令和2年6月現在

## 講座のご案内

■開催日 令和2年10月3日(土)～令和3年2月27日(土)までの間の13日間 ※詳細は別途カリキュラムをご覧ください。

■募集期間 令和2年7月20日(月)～8月28日(金)

## ■講座プログラム

開講式、オリエンテーション	10月3日(土)
講義、講師との懇談	10月10日(土)～2月13日(土)のうち9回 午前/環境分野で活躍する講師による講義 午後/講師との懇談、講師と自由な意見交換
チーム活動、研究活動	10月24日(土)～2月26日(金)のうち10回 チームでの「20年後の未来社会へ向けての環境に関する政策やビジネスモデル」づくり(基礎コース) 自ら環境活動やビジネスを実践していくための研究(アドバンスコース)
見学会及び卒業生との懇談	12月5日(土) 愛知県環境調査センター
合宿(1泊2日)	2月26日(金)～2月27日(土)午前 活動成果の発表準備
発表会・修了式	2月27日(土)午後 活動成果を発表
成果物	報告書：活動成果を報告書にまとめます(基礎コース・アドバンスコース) パネル：活動成果を1枚のパネルにまとめます(基礎コース)

※原則、全日程に参加して修了となりますので、出席日数等により修了証書をお渡しできない場合がございます。

## ■各コースの参加にあたって

	基礎コース	アドバンスコース
参加費	55,000円(税込)	無料
募集対象者	県内の企業、団体、大学、行政機関等に所属されている方 などで概ね60歳くらいまでの方(原則、全13日間参加できる方)	あいち環境塾の基礎コースを修了した方で、 原則全13日間参加できる方
定員	12名 ※定員を超えた場合は入塾申込書に基づき選考させていただきます。 また、面接をさせていただく場合もあります。	若干名

## ■参加へのお願い事項

- ・受講前の検温や手指のアルコール消毒、受講時のマスクの着用(各自で用意)等にご協力をお願いします。
- ・コロナウィルス影響次第では、Web受講(Zoom)となる可能性もあります。Webが利用できるパソコン等を各自ご用意ください。
- ・コロナウィルス感染への注意事項は、入塾後、ご連絡いたします。
- ・開催日程、時間、会場については、変更する場合がございますので、予めご了承ください。

## ■お問合せ

愛知県環境局資源循環推進課  
(循環グループ)

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話：(052)954-6233(ダイヤルイン)  
FAX：(052)953-7776  
E-mail：junkan@pref.aichi.lg.jp

## ■お問合せ・お申込み

公益財団法人名古屋産業科学研究所  
中部ハイテクセンター(CHC)

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目10番19号  
電話：(052)223-6639 FAX：(052)211-6224  
E-mail：kankyojuku@nisri.jp  
URL：http://www.nisri.jp/chc/gathering.html



あいち環境塾 検索